

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201260		
法人名	アーケム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑		
所在地	千葉県千葉市花見川区天戸町1366		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15年目に入りご入居者様の高齢化・介護度重度化に伴い医療面の強化に努め体調の変化・不良等には主治医もしくは往診医への連絡、病院への付添いなどを迅速に対応しています。また、これまでの経験を生かし他施設にて介護の重度化等により対応困難な方の入居を積極的に受け入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年11月19日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 京成線八千代台駅から車で10分の住宅街に立地した2階建て施設です。利用者は広い庭園で季節の花・蜜柑を楽しんだり、畑や貸し農園近辺を散歩して元気に過ごしています。  
 2. 家庭的な雰囲気の中、本人や家族の思いに応えるサービスを提供し、介助困難者を5名受入れる他、多数の改善事例もあり、今年は7人の看取りを行い家族から感謝されています。  
 3. 内科医の月2回訪問診療と24時間対応、看護師(非常勤職員)の週2回健康チェック、オゾン消毒器導入(感染症対策)・嚥下困難者用ゼリー使用等様々な工夫により、平均年齢85歳(90歳超5名内1人は入居期間10年超)ですが、世間のコロナ禍の中元気に生活しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見えるところに掲示し意識づけをしておりその内容に基づいた支援を心がけている。	地域密着を織り込んだ理念を玄関、事務所に掲示し、職員は毎朝のミーティング時や毎月の職員会議時に確認・共有し、日頃のサービスで既実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域との交流については控えているがそれまでは毎日の散歩等で近隣の方と挨拶や会話等で交流に心がけていた。	土地柄よそ者を受け入れない風土がありますが、施設長は地域密着の意義を理解し地域交流を適切に行っています。従来は毎日の散歩時に挨拶を交わしたり、毎年中学生の職場体験や地域ボランティアを受入れ、市に運営推進会議時に地区民生委員の参加を促す働きかけをしていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご見学や電話にてお問い合わせ等があった場合は出来る限り時間を作り丁寧にわかりやすくお話しさせて頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、参加者は施設職員及び本社職員とし地域包括支援センターやご家族等には書面にて報告している。	従来年4回、定期的に地域包括支援センター、社会福祉協議会、利用者、家族、他施設の管理者、職員で開催し、話し合い、サービス向上に活かすように努めていました。現在はコロナ禍の為7月、10月は書類開催とし、近況報告、台風被災と対策、コロナ対策等を取り上げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター、社会援護課等、必要時に電話連絡や窓口に行き相談や報告をしている。	施設長は必要の都度、市担当に連絡・報告する他、運営推進会議に必ず出席してくれる地域包括支援センターから情報やアドバイスを貰い運営に役立っています。又行政当局から要請あった介助困難者を今年5名受入れ、関係者から感謝されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが拘束をしないケアを心がけている。やむを得ない場合においてはご家族に説明し同意して頂き経過観察し再検討をし記録に残している。	身体拘束廃止委員会を設置して3か月毎に開催、職員研修も年4回実施し、職員への周知徹底を図っています。又安全の為玄関やユニット間は日中も施錠していますが、利用者に拘束感を抱かせない様に見守り、フォローしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「虐待防止について」の資料を常に閲覧できる場所に置いたり職員会議にて勉強会をしたり職員一人ひとりが虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉の意味や制度について職員会議等で学ぶよう知識の向上に努めている。成年後見制度についてはご入居者様で後見人がついている方がいるのでどのようなことをしているのか少しずつ理解してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者や家族の方からの質問、疑問については理解されるようにお話をしています。また、入居前には必ず見学されるようお話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。新型コロナウイルス感染防止の為、年1回の家族会とご家族の面会は制限している。よって定期的にお電話にて状況報告の際などにご意見を伺っている。ご意見があった場合には職員会議にて報告し運営に反映させることもある。	利用者からは日ごろ、家族からは訪問時、家族会(年1回開催＝昨年7家族参加)、運営推進会議時に、意見・要望を聞き運営に反映していました。現在はコロナ禍の為、家族の要望に応えラインによるSNS動画配信(4～5名)や、条件付き面会(予約制で時間制限、人により窓越し)等工夫し、家族アンケートでも好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、もしくは随時、意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させています。	施設長は、気軽に声をかけやすい雰囲気を作り、各ユニットのグループリーダーを併せ3名で職員の意見を吸い上げる配慮をしています。又月1回の職員会議時には、職員の意見を聞いて運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準においては常に情報収集し近隣施設より高くなるようにし有給休暇は全消化してもらうなど働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームは小規模な施設なので管理者は職員の動きと力量が見える為その場で指導したり職員同士でも遠慮なく意見交換しお互いに成長できる環境を作っている。職員会議にて介護技術、知識等の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の運営推進会議に参加させて頂いたり当施設の運営推進会議に出席して頂いたり相互の活動内容を報告しサービスの質向上に取り組んでいます。千葉市グループホーム連絡会にも参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や性格等を知り、その方に合う話し方や接し方に心がけているが入居後、環境の変化に伴いニーズ等が変わる事もあるので入居前の情報にとらわれず柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に出来る限り入念に話し合いを行い出来ることは行わせて頂き出来ない事は安易にお約束せず代替案を考え要望に沿えるように努めています。ご入居から3ヶ月程度はまめに電話連絡をしご本人の状況を伝えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの方が本人、家族等にとって必要であると判断した場合は他サービスをすすめることもあり訪問介護、通所介護、小規模多機能など他サービスの特徴の把握にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がわからないことがあり本人がわかりそうなことであれば教えて頂くこともあり家事等を行って頂いた場合は感謝の気持ちも伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の介護方針を変更するときなどご家族にも意見を聞き反映させるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止による面会制限の為、ご家族、友人等に気軽に会える機会はなくなってしまったが携帯電話にて画像・動画を送ったり玄関にて窓ガラス越しに面会して頂いたりしている。	コロナ禍で感染防止の為面会を制限しました。その間家族には携帯電話で画像や動画を送ったり電話連絡をするなど施設での暮らしぶりを伝える配慮をしてきました。事前予約で1日1組15分間と短時間ながら、玄関の窓ガラス越しながら、顔を見、元気な姿を見て安心出来るようにしています。	家族アンケートによると、コロナ禍で面会ができない状況が続き、施設での暮らしを心配する家族がいます。これまでのように動画での写真送付、書面や電話での連絡を継続すると共に、今後は日常生活の情報を更に細やかに伝える取り組みが望まれます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などに留意しながら席の配置を考え穏やかに生活できるようにしている。また、独りでの事が落ち着く方には独りの席を用意しているが孤立しないよう職員がかかわるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も家族からの電話相談などにも対応している。お亡くなりになられ退去された後もご家族が運営推進会議に参加して頂くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の方からの情報を基に気持ちに沿ったケアができるよう努めている。ご本人から聞き出すことが困難な場合は、カンファレンス等でどのようにケアをしていくかを話し合っている。	生活歴やどのような暮らしを望んでいるか、生活を支える為に、家族、本人からの情報収集をしています。言葉をうまく伝えられない利用者には、日々の行動や表情、言葉からくみ取り、把握に努めています。困難な場合はカンファレンスで職員から意見を出し合い、話し合っ本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ご入居前のケアマネジャー等から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来て何が困難になってきたのかを常に観察して正確に把握し残存機能を最大限に利用できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、往診医などの情報を参考にし、カンファレンスや申し送り時に意見や方法等を話し合い、介護計画の作成に活かすよう努めている。状態に変化が見られた時はモニタリングをしてプランを変更している。	モニタリングは月1回、介護計画の見直しは、状態変化がない場合でも現状に即しているか確認しています。状態変化があれば、家族へ相談し関係者達からの情報収集をして計画作成に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や身体的変化、ご本人の様子等個別に記入し職員会議等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時に荷造りや引っ越し等が困難なご入居者様については荷造り、引っ越しのお手伝いを職員が対応している。通院はご家族が対応困難な時は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、区民まつりの参加や地域の商店での買い物は控えている。ご家族も外出を望まれていない。施設内での楽しみを増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族による医療機関への受診や提携のかかりつけ医などご家族の意向によりそれぞれの医療機関で適切な医療が受けられるよう支援しており場合によっては職員がお付添いしている。	24時間対応のクリニックの内科医が月2回訪問診療し全入居者を診ており、利用者・家族に安心感を与えています。利用者の多数の入れ替わりがあり、他科受診は受診担当職員(施設長含め3名)が付き添っています。診察結果は家族、協力医、看護師に情報提供し共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職及び訪問看護師等と密に連絡を取り身体的変化や対応等相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護職及び訪問看護師等と密に連絡を取り入院時の様子や治療の状況等の情報を共有し退院に向けての準備や指示を仰ぐ等している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご家族に説明をし同意をいただいている。実際に終末期となった場合は往診医、看護師等と連携しチームで支援する体制になっている。	協力病院と普段から相談しやすい関係を築いていて、今年7人の看取りを行っています。協力病院もホーム同様終末期の意向確認書を取り交わし家族に十分な説明を行っています。入所4日で亡くなった事例では、入院先の病院ではコロナ禍により面会できない為、最期をホームで付き添って看取りたいと家族から希望があり、看取り支援を行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は直ちに管理者又はそれに準ずる者に連絡し指示を仰ぐよう徹底させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害時の避難訓練は年2回行っています。近隣ご家族に協力を呼びかけ、災害時の協力体制に努めている。職員連絡網の確認や災害時の対応の認識に努めている。	今年自主訓練2回(6月、10月)を実施しています。消防装置・機器は完備し、備蓄は5日分の他、カセットコンロ、防災用品(救急セット、ラジオ、懐中電灯、防寒具等)を準備し、緊急連絡により5、6人の職員が10分で駆けつける体制になっています。又昨年大型台風時には、前日夜勤者の他施設長初め4名職員が待機しました。	関係者で可能性のある災害を話し合い、年1回の災害訓練(全員防災頭巾・ヘルメット着用し垂直避難)の実施、および昨年長期停電を含む台風災害を踏まえ、電源確保、究極の避難場所確保、利用者の薬情報を入れた非常時持ち出し袋の準備が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つける言葉、対応をしないよう心がけている。重度の介護を要する方でこちらからの声かけに反応の無い方であっても誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。	整容時や排泄誘導時はあからさまに声かけをしない事、および、本人のプライドを傷つける事のないよう言葉かけにも配慮がなされています。個人情報の秘密保持はカンファレンスの時に職員に周知徹底を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を引き出せるような声掛けに努めている。自己決定が困難な方には家族の意向を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで日常生活において原則とか規則はなく、ご本人のその日の状態やペースに合わせて、その都度調整しながら、その日の過ごし方に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人により好きな色、形の洋服を着ている。困難な方は、職員によりその方が引き立つような色や形を工夫している。化粧をする方や髭剃りをする方で可能な方は本人に行ってもらっているが出来ない方は職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理担当者が中心に行っているが下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗い、お茶入れなど出来る方は職員と一緒にしている。	もやしのひげ取りなど簡単な下準備は利用者も職員と一緒にいき、調理段階から食事を楽しいと感じられるよう雰囲気作りに配慮されています。限られた利用者ではありますが主婦の経験をいかし、生き活きた表情が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安に1ヶ月の献立が考えられている。食事は身体や口腔の状態に合わせて常食・一口大・キザミ・ミキサー等の工夫をしている。また、脱水にならないよう水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず、口腔ケアを行い清潔にしています。また口腔内の炎症や虫歯、義歯の調整等は必要に応じて訪問歯科に来て頂いたり歯科医院に受診したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人、毎日の排泄パターンを記録し、時間を見て排泄介助を行いトイレでの排泄に心がけている。オムツ使用の方も可能な限りトイレでの排泄を心がけている。オムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツに変更したご入居者様もいる。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた介助を行っています。布オムツやリハビリパンツ着用の方が殆どですが、声かけ誘導しトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援をしています。早めの誘導により失禁が減少し、オムツ代の節約につながると家族に喜ばれているケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に毎日記録を行い、排便の確認をしている。水分や運動により予防をしているが便秘が続く場合、医師の指示により薬の内服を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴で1日4~6名の方が入浴している。毎日の入浴も可能。身体状況に配慮しながら1人ひとりのタイミングに合わせている。入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯など入浴を楽しめるよう心がけている。また、体調不良で入浴が出来ない時は清拭、足浴、手浴、ベッド上での洗髪などで対応している。	入浴前に健康状態を確認し、発熱の利用者には全身清拭を行ったり、その時々に応じて足浴や手浴で対応しています。1日おきの入浴で 午後1時半~3時半分の間に1日4人~6人が入浴しています、ゆず湯・菖蒲湯など季節を感じながらゆったりした入浴を楽しめるよう配慮がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ソファで寝ている方はあえてベッドには誘導せずそのまま寝て頂いている。起床・就寝はその日の体調に応じて対応している。安心して気持ちよく眠れるように掛け物と室温調節には常に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく出されたり今まで服用していた薬が中止になった時などは口頭と連絡ノートにて情報を共有し要観察し何か変化が見られた場合は速やかに主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の長年の習慣や趣味を活かし、裁縫や庭仕事、おやつ作り、掃除等職員の声かけと共に一緒に行っている。重介護で反応の無い方であってもCDで音楽を聴いて頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出は控えています。施設周辺の散歩は短時間、短距離で行っている。施設の庭での日光浴は天気の良い日は行っている。	コロナ禍で外出は控えています。歩行困難や重度化した人が多く、車椅子に乗りし庭に出て草花を握っている人、日光浴をしながらうとうとしている人等、みんな穏やかな表情をしていました。短時間でも五感刺激になればと外気浴や談笑、歌を歌う等いろいろ採り入れて支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持できる方はご本人が持っておられます。ご家族の方から預かったときは、出納帳に記入している。ご本人が所持できる方であっても度重なる紛失がある場合はお預かりすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるよう配慮している。手紙や葉書を書かれたときは、職員が預かり投函している。本人からの申し出が無くてもご家族に電話しお話をさせて頂く場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、台所が一つの部屋となっており、料理の匂いも楽しめるように配慮している。庭では季節の花や野菜を栽培し、旬を楽しめるようにし壁はご利用者の作品や、協同作品を飾り楽しんでいる。不快な空間にならないように心がけている。	リビング兼食堂は、清潔でゆったりしており、コロナ対策の為適時換気し、オゾン消毒器を各所に置いています。従来感染症対策の為掃除と消毒を徹底していましたが、今回の新型コロナウイルス対策の為、更に徹底し毎食時の手洗い、都度のトイレ掃除はもとより、全部の消毒(手摺、ドアノブ等)を最低1日2回実施しています。そのような中、利用者は、体操、歌、庭のミカン狩り等して過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブル席、ソファーとご自由に過ごされておりご自分で移動が困難な方は職員が常に気を配り声掛けをし本人の行きたいところへお連れするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドや筆筒等馴染みの物を何でも持ってくる事ができ壁や整理筆筒の上には写真やご自分の作品等を飾り思い思いに楽しまれている。居室内部から施錠もあり安心して過ごせるよう配慮している。	コロナ禍のため居室内を十分見学はできませんでしたが、職員へのヒアリング、および家族アンケートから、居室はベッド、クローゼット、以前の利用者が残っていたダンス等が備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。又車いす利用者が15名と多くなり、職員は動線確保に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口には物を置かないよう安全に心がけ、洗面道具や湯飲み等手の届くところに置くようにしご自分で出来ることはご自分で行って頂くようにしている。		